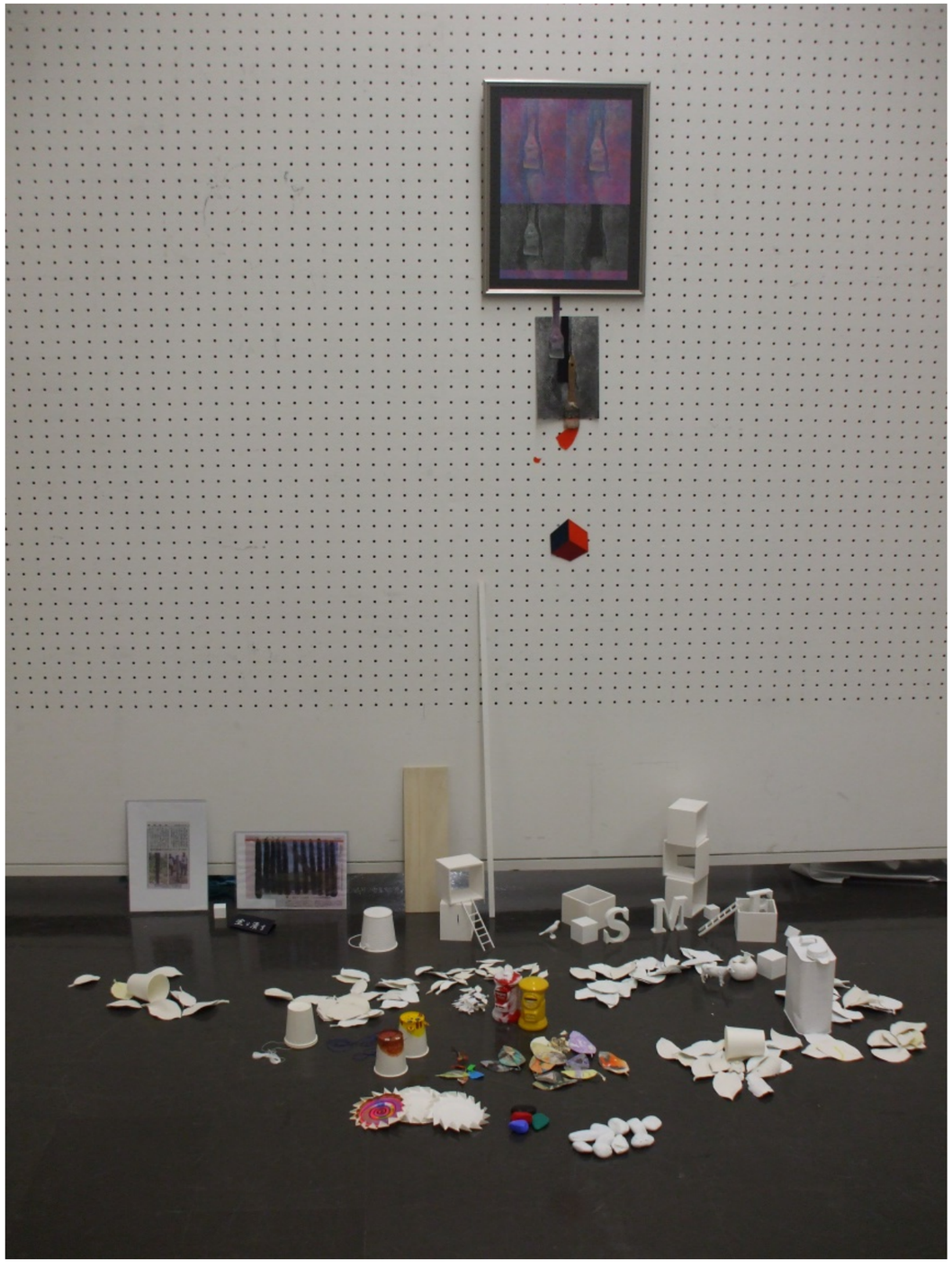

作品№２３　「脱・フレーム」～内と外　　根岸　和弘

この作品は、壁面に掛けられた額と床面に置かれたモノとで構成されている。

塗る道具である「刷毛」が描かれた作品として額縁（フレーム）の中から脱していく様（フレームの内と外）を表現してみた。　「刷毛」は脱出した後２段目の作品の上で２回変化を繰り返し実物の刷毛に至り、用意されたモチーフを着色する道具となる。

床面の白色のモチーフは「塗る」ワークショップを待っている品々である。
（木の葉、木製木箱、紙コップ、紙皿、小石、フィギュア等よくある物です）

「塗る」のキーワード　①描く　→　創造
②塗り変える　→　再生
③塗りつぶす　→　否定

今回はキーワードに沿って着色したものを数点参考例として提示した。

①　描いて遊ぶ
紙コップは動物顔の糸電話に、紙皿は息で回すフーフー独楽に。これらは地域の小学生とのワークショップでも実践したもの。会場に於いても遊びが創造され、和やかな空気を生んだ。

②　塗り変える（新しい価値の付加）
木の葉（夏椿、桜）を粘土でかたどり着色。葉脈もリアルになり、カラフルな色どりに「作ってみたい」や「欲しい」等の反響があった。

③　塗りつぶす。
報道写真２枚。「震災鎮魂の為に建てられた木柱が何者かによって黒ペンキで塗りつぶされた記事」「北朝鮮の ICBM 強行発射の写真を塗りつぶした例」は否定の塗りであり、会場では戦後黒墨で一部塗りつぶされた教科書の話が出た。これは隠す塗り。いずれも「塗りつぶす」という行為は、受け手にとって、元の状態への関心とつぶした意図に対し強いメッセージとなる。